

[相双広域こころのケアセンター:なごみ]
患者さんと被災地の住民のこころのケアを行う体制づくり

2012年1月10日、公益財団法人ヤマト福祉財団(本部:東京都中央区、理事長:有富慶二、以下ヤマト福祉財団)「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」の第三次助成先の一つ「NPO 法人 相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会」は、助成金3,000万円を活用して『相双広域こころのケアセンター:なごみ』をオープンし、地域の精神科医療、精神保健の充実に向けて活動を開始しました。

震災前、相双地域の患者さんが頼っていた精神科診療の病院やクリニックは、警戒区域や緊急時避難準備区域に該当し、診療ができなくなりました。そのため多くの患者さんの容態は悪化。急遽、周辺病院が診療スペースを提供し、全国から集まった医師が交代で診察にあたり何とか対応してきました。ただし、外部支援をいつまでも受けられる訳ではありません。そこで「自力でケアできる医療体制を急ぎ整えたい」と助成を申請。1月10日、待望の『相双広域こころのケアセンター:なごみ』が完成しました。これにより患者さんたちの精神科治療を行うクリニック、さらに震災後問題となっている仮設住宅などに住む被災者のこころをケアする訪問医療チームの編成も実現。相双地域の新しい医療・保健体制づくりは、着実に進行しています。



現在クリニック6名、訪問医療チーム6名の体制です



新しい診察室で患者さんを迎えます



オープンの日には30人を超える
診察の予約がありました



4月にはさらにスタッフを増員し、
訪問医療チームを2チームへと強化します